

P/T/A

●平成20年3月7日発行

129号

発行 ●社団法人岩手県PTA連合会
盛岡市みたけ三丁目38-20 ☎641-6444
印刷 ●山口北州印刷(株)
盛岡市青山四丁目10-5 ☎641-0585

いわて

主な内容

- ・第12回家庭教育セミナー
 気仙地区セミナー開催 …………… 2
- ・第40回東北ブロック研究大会盛岡大会… 3
- ・日本PTA全国協議会表彰 …………… 4
- ・閉校を迎える単位PTAに感謝状 ……… 6
- ・提言 「耐えるたびに見えてくる」…… 7
- ・特色あるPTA紹介 …………… 8

はやちねフェスタ



花巻市・内川目小学校PTA提供

活動
目標

すこやかに育て いわてっ子

E-Mail: pta@iwate-pta.or.jp

URL: <http://www.iwate-pta.or.jp>

気仙地区セミナーを開催

◇テーマ「いま、子どもの命を支える家族の絆」

—育もう！地域に生きるみんなの力で—

■期日 平成19年10月20日(土)

■会場 大船渡市立第一中学校

基調講演

◆講師

松本 源蔵 先生(岩手県芸術文化協会会長)

◆演題

「子育て わたしの場合」

◆パネルディスカッション

◆コーディネーター

河辺 邦博氏(IBC岩手放送報道局長兼報道部長)

◆パネリスト

佐々木悦子氏(盛岡市教育委員会生涯学習スポーツ課社会教育指導員)



生内 雄二氏(前岩手県PTA連合会副会長)

菅原 実氏(元大船渡市立第一中学校クラブ育成会長)

新沼 律子氏(元大船渡市立日頃市小学校PTA会長)

平成十九年十月二十日、大船渡市立第一中学校を会場として「気仙地区家庭教育セミナー」が開催された。

大船渡農高の太鼓部男女三十六名による「大農太鼓」で開幕したが、その気迫に満ちた太鼓の響きと演奏する生徒の姿から滲み出る美しさに心が揺り動かされた。

開会行事では、気仙地区PTA連絡協議会今野秀治会長から「当地区で初めて開催されるセミナー。意義のあるセミナーであって欲しい」との挨拶があった。

基調講演は、盛岡地区と同じ内容であったが、前回同様「弄花(はなもよほ)香満衣(かほみちい)、親の在り様を会員一同が改めて学ぶことができた。続いて行われたパネルデ



アトラクション「大農太鼓」

ィスカッションでも、前回同様肩肘の張らない率直な意見が四人のパネリストから述べられ、今回もコーディネーターの巧みなりードによってテーマに則したディスカッションが展開され

盛りがりをみせた。その中で、お祭りや体験学習の取り組みを通しての今の若者や子ども達の由々しき現状や実態に触れ、その原因は大人の責任にあるとする意見が出された。子どもが悪いのではなく、大人の影響によるというものである。

「今日は大成功だった」という閉会の言葉で気仙セミナーの幕を閉じた。

気仙地区の会長、事務局長を始め、参加者三百二十を超えた地区会員の熱心な取り組みに感謝したい。



気仙地区セミナーに参加して

気仙地区母親委員会委員長 熊谷 好子

去る十月二十日、大船渡第一中学校を会場に、気仙地区家庭教育セミナーが開催されました。前日までの雨も止み、天候にも恵まれ、三百人を超える参加者が集まり、大成功に終わりました。私自身、このような行事に参加するのは初めてで、しかも主催者側の参加となり、不安やら心配やらで、当日を迎えることとなりました。

今回のセミナーでは、地域とのかかわりということでのテーマを設け、たくさんのお話を聞かせていただきました。

基調講演での松本源蔵先生のお話では、子育ては自立させることができたと言えることが大切であり、子どもに教えられることも多いこと、慎重に、謙虚に、明朗に、を心掛けてきたことなど、説得力のあるものでした。

パネルディスカッションでは、パネリストの方々が、仕事上などでかかわる子ど

も達の姿、理想のかかわり方などについて、様々な視点から話されました。学校で、家庭で、社会の中で、子ども達のかかわりから普段感じていることが話され、大変参考になりました。私は仕事上、いつもコミュニケーションの難しさを痛感します。人とのかわりには欠かせないものであり、家族においても地域の人においても同様です。何事においても、コミュニケーションが始まり、そこから関係が築かれていきます。よい関係になるのもうまくいかなくなるのも自分次第です。コミュニケーションを上手にとれる方法を身に付け、社会の一員としてかわり続けていくことが、とても大切だと思います。

最後に、今回のセミナー開催に当たり、たくさんの方々に尽力いただき、ありがとうございました。

第四十回東北ブロック研究大会盛岡大会

第一次案内を発送!!

◆大会主題

語り合おう、イーハトーブの地で『夢』と『誇り』と『志』を

◆記念講演

- ・講師 宗教学者・哲学者 山折哲雄先生
- ・演題 「親の背中、子どもの素顔」(仮題)

盛岡大会参加者割当一覧

No.	市町村名	割当数
1	盛岡市	480
2	八幡平市	40
3	雫石町	26
4	葛巻町	10
5	岩手町	23
6	滝沢村	81
7	紫波町	54
8	矢巾町	45
9	花巻市	141
10	北上市	76
11	西和賀町	5
12	奥州市	96
13	金ケ崎町	12
14	一関市	91
15	平泉町	6
16	藤沢町	7
17	大船渡市	33
18	陸前高田市	19
19	住田町	3
20	釜石市	28
21	大槌町	12
22	遠野市	21
23	宮古市	44
24	山田町	15
25	岩泉町	8
26	田野畑村	3
27	川井村	2
28	久慈市	30
29	洋野町	16
30	普代村	3
31	野田村	4
32	二戸市	23
33	軽米町	8
34	九戸村	5
35	一戸町	10
合 計		1,480

※割当の原則(平成19年度会員数基準)
 A. 盛岡市480名の割当
 B. 岩手・紫波・花巻地区は会員数53名に1名の割当
 C. 上記以外の地区は会員数101名に1名の割当



来る平成二十年九月六日(土)・七日(日)の両日には、盛岡市を会場に東北ブロック研究大会盛岡大会が開催される。
 主管である盛岡市PTA連合会では、実行委員会を中心に協議を重ねてきた結果、開催要項がほぼ固まり、去る二月下旬、一次案内が東北各県等の関係PTA宛に発送された。

全体会の記念講演には、岩手に縁の深い宗教学者・哲学者の山折哲雄先生を迎えることとしている。

また、分科会においては、今回も全てパネルディスカッション方式として、東北各地より実績のあるパネリスト並びにコーディネーターを依頼している。

なお、分科会の基調講演講師としても、中央から著名な方々を招聘している。

- 分科会及び研究内容
 - 第一分科会 組織運営
 - 魅力あるPTA活動を生み出す運営組織
 - 第二分科会 研修活動
 - 会員の資質及び活動の質的向上を図る研修
 - 第三分科会 健全育成
 - 子どもの安全・安心を見守る学校や地域との連携活動
 - 第四分科会 家庭と小学校教育
 - 家庭の教育力向上と小学校教育
 - 第五分科会 家庭と中学校教育
 - 家庭の教育力向上と中学校教育
 - 第六分科会 特別課題I
 - 先人や地域の人から知恵・生き方を学ぶ教育
 - 第七分科会 特別課題II
 - 子どもの心を支える家族の絆
- 参加割当依頼

盛岡大会成功の鍵は、実行委員会の緻密な計画にあるが、それと共に多くの会員各位の参加の下で、大会を盛り上げていただくことである。

全体の参加予定者数を二千人としているが、その内、県外への参加割当数が五百二十人。残りの千四百八十人が県内への割当となる。

従って、各市町村PTA連合会への割当数は、左記のように考えているので、よろしく願いたい。

実行委員会では、会員各位が有意義な研究大会であったと言えるように、本番に向けて鋭意努力しているところである。県内会員各位におかれましても、是非積極的な参加をお願いしたい。

日本PTTA全国協議会表彰

平成十九年度全国優良PTTAの表彰式が、平成十九年十一月二十一日、東京千代田区のホテル・ニューオータニにおいて、盛大に挙行された。本県の受賞者は次の方々である。

《文部科学大臣表彰》

久慈市立久慈小学校PTTA

(会長 中新井田 聡氏)

花巻市立八重畑小学校PTTA

(会長 佐藤 現氏)

岩手県立前沢養護学校PTTA

(会長 千葉静雄氏)

《日本PTTA会長表彰・団体》

雫石町立雫石中学校PTTA

(会長 星 征一氏)

陸前高田市立横田小学校PTTA

(会長 菅野広紀氏)

《日本PTTA会長表彰・個人》

生内雄二氏(十六・十七年)

監事、十八年副会長)

川畑裕也氏(十七・十八年)

副会長)

小山田直美氏(十八年副会)

長・母親委員長)

(故)内藤 實氏(十四年)

十八年事務局次長、事

務局長)

日本PTTA会長表彰(団体)

日本PTTA会長賞(団体)を受賞して

雫石町立雫石中学校PTTA

この度の受賞は、歴代のPTTA役員並びに会員の皆様が永年にわたって築き上げてきた実績や地域の皆様との絶大なご支援・ご協力の賜と、関係各位に深く感謝申し上げます。

雫石中学校は一町一校の中学校として、十の小学校から生徒が集まります。会員は四百三十名を数えます。

本校のPTTA活動の一つとして、地区単位での活動があります。葛根田川でのNPO法人と協力しての自然を守る活動。竜川での小学生と高校生合同の清掃活動。二十年以上続く慰霊の森(全日空機事故現場)清掃では、町やANAの関係者と合同で活動しています。その他、国道周辺の親



ど研修活動を行う研修部。早朝清掃作業などを担当する環境整備部。祭巡回など生徒の健全育成を担当する指導部。全員の親睦・交流を担当する厚生部など、各部それぞれが精力的に活動しています。

現在、社会の学校に対する目は厳しく、親や教師が批判的になることが多く

日本PTTA会長賞(団体)を受賞して

陸前高田市立横田小学校PTTA

昨年地域にオープンした「川の駅よこた」を会場にして「全国表彰祝賀会」を十一月三十日に開催し、歴代の会長を始めとする先輩の方々や支えていただいた歴代校長先生、職員の方々に感謝しながら、現会員と共にこの受賞を喜び合いました。また、市教育委員会からもお祝いに駆けつけていただくなど関係各位には深く感謝申し上げます。

さて本会は、平成十九年度四十二世帯(児童五十七名)の会員ですが、これまでの素晴らしい活動を継承するとともに、地域・家

見られます。誰が悪いと犯人捜しをしても子どもは良くなりません。親と先生が相互に連携し、気持ちを通わせることが大事であり、そのような信頼関係に満ちたPTTAを目指して参りたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。

(PTTA会長 星 征一)

庭・学校がより深く結びついた「コミュニティ・スクール」を目指した、新たな活動も積極的に展開しようとしています。これは、保護者や地域の声や意見を積極的に学校に取り入れてもらいながら、地域と共に歩み、地域の中に生きる学校づくりに参画していくというものです。三十六年間も続けてきた三代PTTA文集「らいじん」の作成や十年目となる気仙川を舞台にした全会員参加の「川まつり」などに加え、学校課題となっている学力向上に少しでも関わろうと「ス

テップアップチャレンジ」と題した家庭での生活点検の取り組みもスタートしました。これは「早寝・早起き・朝ご飯」を含めた家庭生活の向上が学力向上の基礎となることを意識させる取り組みで、学校への参画意識も高まっています。また、EMを使った無農薬米作りや給食センター等と連携しながらの食育への取り組みにも支援できる体制が整ってきました。

今回の受賞を一つの節目とし、さらに会員の連携を深め、確かな子どもたちの成長を願って活発な活動を進めて行こうと考えています。この度の受賞は、大きな励みとなりました。ありがとうございました。

(PTTA会長 菅野広紀)



PTA掲示板

文部科学大臣表彰

多くの方々に支えられたPTA活動

久慈市立久慈小学校PTA

この度の名誉ある受賞に際しまして、歴代の会長・役員をはじめ、PTA会員、教職員、地域の方々、関係機関の皆様もとても喜んでくださいました。久慈小PTAは、この多くの方々に支えられ、今日の活動があることを再認識いたしました。本校PTAの特色として次の四点を紹介します。

一つ目は、古くから組織を立ち上げ（本校PTAは昭和二十三年度から活動を開始）、活動が継続されてきたこと。

二つ目は、市内の企業や商店に防犯ステッカーを配り、それを営業車に貼ってもらい防犯パトロールをする等、地域や保護者、関係団体が連携しての活動を行っていること。

三つ目は、各PTA専門部や学年PTA、地区PTAの熱心な活動がされていること。



介護体験教室

例えば、老人クラブと連携したPTA行事や高校生と一緒に介護体験教室、金融機関や警察署と連携しての不審者対策教室などがあります。

これは、「ピンピン・ニコニコ元気久慈小っ子」の育成・「学校大好き、家庭大好き、地域大好き」というスローガンのもとに、新設した久慈小PTAボランティアによる活動です。最後にりましたが、受賞に際しましてご尽力いただきました。諸先輩方や関係各位のご支援・ご協力に感謝を申し上げます。今後とも多彩で活発な活動を継続して参りたいと思っております。
(PTA会長 中新井田 聡)

地域に支えられた活動

花巻市立八重畑小学校PTA

八重畑小学校区は、県中央部花巻市の北に位置し、米・果樹・野菜を栽培する農業地域です。

本校PTAは、昭和二十三年設立以来、多くの地域の方々の支援をいただきながら、心身共に健全な児童の育成をめざして地域や自然環境に即した実践活動を行って参りました。

その一つとして、基本的な生活習慣の育成をめざす「挨拶」「安全」「後始末」の「あ」をとった三つの「あ」運動があります。これらについても、地域の理解と協力を得ながら推進してきております。

また、郷土芸能「十日市神楽」を昭和四十九年以来三十年に渡って支援してきたのも、実践活動の一つです。「十日市神楽」は、運動会・敬老会・学校行事・地域行事等、機会を捉えて、児童や地域の皆様に披露されています。中でも、五・六年生全員で舞う「三番叟」の衣装は、すべてPTAで

作製しています。

さらに、地元の自然環境を生かした米や雑穀栽培への支援、そして、遺跡や鮭の学習を含んだ地元学習での学習アドバイザーなど、郷里に対し関心を深めさせるための支援活動を行っています。

平成十七年には学校区内にビオトープを開設しました。これを契機として、周辺の環境が整備をされ、子どもたちが絶滅危惧種や希少生物等の保護・保全活動に取り組みようになり、自然環境への関心が高まっています。

その他、図書ボランティア「アインプーフ」が毎週読み聞かせを行ったり、「スクールガード」が子ど



八重畑りんごの収穫

もたちの登下校の安全を見守ったり、PTAが中心となり学校・地域が一体となった取り組みがなされております。

この度の受賞に際しまして、これまでの活動を支援してくださいました多くの関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、これから子どもたちが心豊かにたくましく成長することを願い、PTA活動を一層推進して参りたいと思っております。
(PTA会長 佐藤 現)

閉校を迎える単位PTAへ

感謝状を贈呈

少子化の進行により、今年度末も統廃合される学校が、十数校を数える。

それぞれの学校では、来し方の輝かしい歴史を振り返るとともに、新たな学校での更なる飛躍を願い、この三月末にかけて閉校式や思い出を語る会等の開催が予定されている。

- 岩手県PTA連合会では、今年度も閉校となる学校の単位PTAに対し、その長年の活動を称え、感謝状を贈呈することとしている。
- 今年度、感謝状が贈呈される単位PTAは、次の通りである。
- 葛巻町立馬淵小学校PTA (皆川勝幸会長)
- 五日市小学校へ
- 花巻市立田瀬小中学校PTA (多田義和会長)
- 田瀬中が東和中学校へ
- 北上市立煤孫小学校PTA (佐藤久重会長)
- 北上市立岩崎小学校PTA (門屋龍一会長)
- 北上市立岩崎新田小学校

PTA (高橋和幸会長)
《以上三校は新設・いわさき小学校として》

- 一関市立真滝中学校PTA (岡田もとみ会長)
- 一関市立弥栄中学校PTA (小野寺清悦会長)
- 《以上二校は新設・一関東中学校として》
- 住田町立上有住小学校PTA (皆川繁雄会長)
- 住田町立下有住小学校PTA (佐々木光彦会長)
- 《以上二校は新設・有住小学校として》

- 岩泉町立大平小中学校PTA (合砂哲夫会長)
- 岩泉町立安家小学校PTA (大崎研一会長)
- 岩泉町立安家中学校PTA (水野 肇会長)
- 《以上三校は新設・安家小中学校として》
- 軽米町立小玉川小学校PTA (上村秋男会長)
- 《小軽米小学校へ》
- 九戸村立宇堂口小学校PTA (本川耕一会長)
- 《戸田小学校へ》

日本PTA全国協議会
「実践事例集」
に掲載決定

社団法人日本PTA全国協議会が例年作成しているPTA実践事例集への事例提供PTAとして岩手県から三市町村PTAを推薦した。その中から、川井村PTA連合会の実践事例が採用され、平成十九年度資料『PTA実践事例集No.24』に掲載されることに決まった。

なお、日本PTAから提示されたテーマは「広域的なPTA活動の充実―社会の変化に対応する健やかな子どもの育成―」である。

事例提供PTA
〔重石町PTA連絡協議会〕 (高橋正明会長)
「PTAの交流の場としての『PTA実践交流会』」

〔北上市PTA連合会〕 (高橋 聡会長)
「教育懇談会」

事例採用PTA
〔川井村PTA連合会〕 (芳門千鶴会長)
「伝統芸能伝承活動」

たのしい子育て 全国キャンペーン2007

おめでとう！ 三行詩コンクール入賞

社団法人日本PTA全国協議会が主催する「家庭の風景」三行詩コンクールに本県から次の児童・生徒が入賞した。

〔小学生の部〕

- 佳作
- 吉田未南さん (奥州市立岩谷堂小・二年)
- 阿部友香子さん (八幡平市立安代小・三年)

〔中学生の部〕

- 日本PTA会長賞
- 三浦季紗さん (岩泉町立小川中・三年)
- 佳作
- 遠藤優雅さん (岩泉町立小川中・一年)
- 下村 円さん (岩泉町立小川中・三年)
- 鈴木しおりさん (岩泉町立小川中・三年)

日本PTA会長賞 三浦季紗さんの作品
お父さん、お母さん
「育ててくれてありがとう」
なんて、いつ言えるだろう。

「やっぱり家族っていいな」/いわて家庭の風景 第4回 三行詩コンクール作品募集

目的 日頃の家族の姿を見つめ直す子育て全国キャンペーンの趣旨を会員及び県民全般に広め、「家族の絆」のあり方について考える機会とする。

主催 社団法人岩手県PTA連合会

- 応募方法
1. 所定の用紙により、在籍等、関係する学校を通じて応募する。
※FAXによる応募は不可。
※「e. 一般の部」は、本会への直接応募とする。
 2. 応募部門は次の5部門とし、どの部門への応募であるか明記する。
(a) 小学生の部 (b) 中学生の部
(c) 幼稚園児の部 (d) 保護者の部
(e) 一般の部
 3. 一人1点、自作・未発表のもの。
 4. 著作権は本会に帰属するものとする。

応募期間 平成20年6月1日～6月30日

入賞種別 岩手県知事賞・岩手県教育委員会教育長賞
岩手県PTA連合会会長賞
優良賞・佳作 (各部門)

※詳しくは、後日各学校 (単位PTA) から配付される募集要項をご覧ください。

耐えるたびに見えてくる

教育情報いわて社

編集長 佐瀬 壽朗

バスの中の母と園児

バスの車内はいつもより少し混んでいた。あるバス停からお母さんと一緒に幼稚園の男の子が乗車してきた。座っている私の側に立ったので「ここに座って」と話しかけると、お母さんは「ありがたいございます。この子とは座れないときは我慢するように約束していますから」と穏やかに語られ、確かめるように子どもお母さんの顔を見てにっこり。「そうか、えらいね」と誉めると、座席の把手をしっかりと握って10分ほど立ち続けていた。

下車するとき、お母さんとその子は「ありがとうございまして」と運転手さんに一言残して降りて行った。歩き始めてからのお母さんは「偉かったね、約束し

たとおり我慢して立って、たし、あいさつもできたね」とでも語りかけているように見えた。

水番の夜

昭和二十三年、私が小学四年生のときであった。当時は田に水を引く時は、水口で「水番」をするのが常であった。時によっては水口の石が動かされ水が均等に流れないこともあるので、水番に立ち相互に監視し合うのであった。

夏休みの月が出ていたある夜、母は女一人での水番は心もとないので私を連れて行くことにしたのだ。水口の近くの家の敷地には、たわわに実った桃の木があった。「母ちゃん、腹減つてのど乾いた。だれも見ていないからあの桃を取って食うべ」と密めて語った。母は「そうだなあ、んだ

どもな、人様の家の物を盗るのは泥棒だ。悪ことをやっちゃだめだ。神様は見てる。今夜はお月さんも見る。我慢せ」とたしなめられた。

しばらくして、母は持ってきたキユウリを風呂敷から取り出した。月明かりの田の畦に座って、母と口にした生キユウリの味噌味は忘れられない。

ホームレス中学生

ベストセラー、田村裕さんの著書「ホームレス中学生」。十歳でお母さんをガンで亡くし、十三歳のとき

佐瀬 壽朗氏
プロフィール

●昭和36年山形村立小国小学校教諭●昭和39年盛岡市立仁王小学校教諭●昭和57年県立教育センター研究員●昭和60年盛岡市立仁王小学校教諭●昭和63年宮古市立花輪小学校長、以後、盛岡市立太田小学校長、盛岡市立上田小学校長、盛岡市立桜城小学校長を経て平成11年定年退職●同年盛岡市立中央公民館太田分館長●平成16年より教育情報いわて社編集長

お父さんもガンに侵され、そのため会社を解職。精根つきたお父さんはある日、突然「一家解散」を宣言し行方不明に。住んでいた家は人手に渡り、田村さんは兄弟とも離れ独り身に。公園の遊具の中での辛い暮らし。空腹を満たすために草や段ボールまで食べてみる。そのときの心境である。

「こんなに腹が減っているのだから、一個ぐらいパンを盗ったってバチがあたらないだろうと、いけない考えが浮かんできた。罪を犯すか犯さないかで迷っていた。腹の虫と理性が闘っていた。そのとき、お母さんの顔が浮かんだ。もし、お母さんが見ている、そんなことをしようとしていると知ったら、どんな顔をすればだろうか。」

田村さんの理性が勝った。「あの日、もしパンを盗んでいたら、僕の人生はどうなっていたかを考えるとぞっとする。お母さんが止めてくれた。守ってくれた。見ていてくれた。」と自分をそのように育ててくれたお母さんを誇り、思慕するのである。

耐えるたびに

今は亡き作家、藤沢周平さんは、色紙を請われると「耐えるたびに少しづつ人生が見えて来る」と書かれたそうである。

バスの中で10分ばかり立ち続けたあの子には、下車後、何が見えて来たろうか。母との約束を果たした誇り、大人のように耐えた成長の自覚、母の人中での振る舞いであつたかも知れない。

私にとつての六十年前のあの夜。母は日頃のように「人の道」を繰り返す母であつた。「やっぱりな」とほっとした。もし、食べ合つたなら、それ以後、母を観る目が変わつただろう。

田村さんは、お母さんから「認められ誉められ期待されたことが、耐える磁針となつた」と述べている。

お母さんと逆境を支えてくれた心温かい方々へ報いるため、個性を活かせる芸能界を目指したのであつた。

子ども時代、だれもが様々な場で様々に「耐える」体験をしてきている。「耐える」たびに、それまでより少し成長し脱皮したもう一人の自分の存在に気づいて

きている。その積み重ねが人生であることにも。

子どもが「耐える」のは、その子の意志力ではあるが、何と言つても現にその子を取り組んでいることの価値を語り、心底から誉めて認めて支えてくれる親(大人)が側にいるからである。大人とて子どもと全く同様なのである。

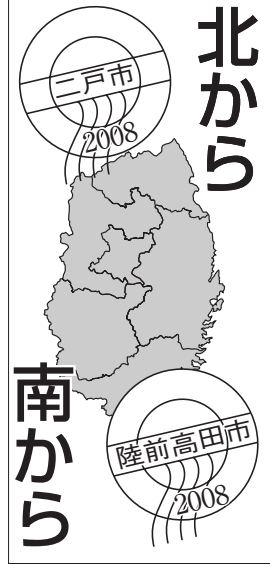
人生が見えてくる

私の母は晩年、病が重くなり介護施設にお世話になつた。認知症が徐々に進んできていた。

会いに行くたびに「大きくなつたなあ。悪いことするなよ。人を騙したり人の物を盗つてはならねぞ。手が後ろに回るぞ。欲しいものがあつたら母ちゃんが買ってやるがら」と諭された。いつも素直に耐えて聞いた。母にとつては、私はいつまでも子どもであつた。

時間・空間・立場・病状を超越し、「耐える」気力が弱り、自分の世界に浸って満足している母を羨ましくさえ思つたこともあつた。

その母の姿は、近い将来の自分の姿でもあることが見えてくるのだつた。



北から

南から

PTAバザーの取組み

一戸市立福岡小学校PTA

二月九日、小学校の参観日に合わせて、バザーを開催しました。この取組みは子どもたちの活動のための書籍や備品を充実させることを目的に、執行部と厚生部が中心になって行っている恒例行事です。保護者から寄贈してもらった家庭に眠っている日用品等の販売コーナーや食べ物等の模擬店を用意しました。今年は、冬の開催により、体育館を会場としたため制約もありましたが、チョコバナナや綿あめといった定番の他、へちまこ団子や古代米おにぎりなど郷土色豊かなメニューも用意することができました。また、会長自ら音頭を取り、おやじによる昔遊びコーナーも設け、子ども



PTAバザー

たちにも挑戦してもらいました。前日の準備と当日の調理、販売には、広くお手伝いの参加を呼びかけ、執行部、厚生部の他にもたくさんのお父さん、お母さんに協力してもらうことができました。約二時間のバザーでしたが大いに盛り上がった会にすることができました。PTA活動は、みんなで作りに上げたいと願い、日々活動を行っていますが、仕

事への忙しさや家庭の事情などのため、なかなか全員参加というのが難しくなっている現状があります。今後バザーのようなみんなで作ることができる取組みを企画するとともに、会員への呼びかけを行い、全員参加のPTA活動を目指していきたいと考えております。(PTA会長 十文字保雄)

企画等
○生活部・街頭での交通安全全指導等
○広報部・会報「浜っこ」の作成
○奉仕部・親子草刈りの企画等
○厚生部・学校保健委員会の企画等

一例を紹介すると、奉仕部の親子草刈りは、運動会前と文化祭前の年二回実施し、きれいな学校にしてお客様を迎える準備をしています。また教養部は、生徒の健全育成を目的とした講話の開催を担当しているが、さらに文化祭ではチャリティーバザーを開き、生徒会の募金活動と提携しあつて、陸前高田市の歳末助け合い運動に協力している。

陸前高田市立広田中学校PTA

「おらほの地域の子ども達」を大切に育てる

広田町は、陸前高田市の高田松原海岸から車で約15分、広田半島に位置する。主たる産業は、ホタテ等の養殖漁業。また、伝統芸能が継承され、地域の文化が根付いている。学区には、保育園・小学校・中学校が一つずつあり、子ども達は保育園入園時から中学校卒業まですずと一緒であることか

ら、どの家庭も「おらほの地域の子とも達」という気持ちで接していただいている。そしてPTA理事は、通常より細かな地区割りを行い、23名もの地区理事で構成されている。その中で、具体的なPTA活動は、次の5つの専門部が推進している。

○教養部・家庭教育学級の

表紙「写真説明」

本校PTAの恒例行事となっている「はやちねフェスタ」を紹介いたします。

地区のお年寄りの方々、老人クラブの皆さんと児童、親が一緒になって、十二月に注連縄飾りを作るといっものです。

一番大変なのは、縄をなうことです。準備していただいた藁を、親子一緒になう绳にしていくのですが、今の親も縄をなう事などやった経験がないので、老人クラブの方々に指導していただき、二時間かけてやっと出来上がりました。

(PTA会長 藤原秀司)

【平成19年度東北PTA連絡協議会長賞受賞PTA】

2007親子草刈 (1回目)

